



頼れる地域の相談相手

民生委員・児童委員、主任児童委員ってどんな人？

民生委員・児童委員は、地域の住民生活を必要に応じ適切に把握し、生活に困った人や児童の保護・育成などの福祉について相談を受け、自立を助けるために必要な相談・支援を行う地域福祉推進の担い手です。また、子育てサロンの運営や児童虐待防止の取り組みなど、児童福祉を専門的に担当する主任児童委員も各地域で活動しています。生活上のことや子どものこと、その他福祉に関してご相談のある場合は、お近くの民生委員・児童委員及び主任児童委員にご相談ください。お住まいの地域の民生委員・児童委員については、下記担当までお問い合わせください。

【問合せ】安全安心企画 1階 8番 電話4809-9505



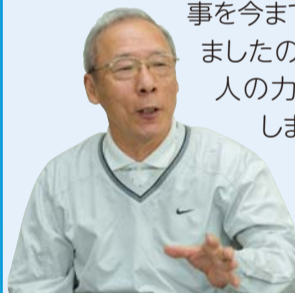
民生委員・児童委員の方にお話を伺いました！

東淀川区では現在、245名のみなさんが民生委員・児童委員、主任児童委員として、活動しています。住民の身近な相談相手になったり、行政へのつなぎ役として、人と人との絆を取り戻すために奔走しています。今回は3名のみなさんに活動の様子を伺いました。



本当に支援が必要な人を助けたい

高齢者や障がい者、子どもたちの見守り活動を主軸に、各種相談や役所への手続きに同行するなど活動は多岐に渡っています。以前、相談に乗った青年とは、今でも顔を合わせたら、あいさつする関係が続いていますね。相談内容が複雑な場合は、地域包括支援センターと連携し「どんな支援が必要なのか」を関係者で検討したりもします。相談したいけど来られない人にこそ支援が必要なんです。今期から町会長に就任し地域の事を今まで以上に把握しやすくなりましたので、本当に支援が必要な人の力になれるよう全力を尽くします。



民生委員・児童委員、井高野地区委員長 なかむら よしたか 中村 吉孝 さん

コミュニケーションの場づくりから

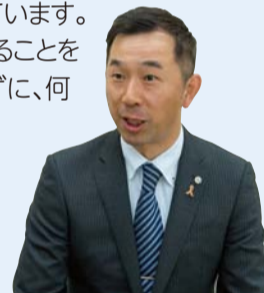
最近は集合住宅などで地域の方の出入りが激しく、昔から暮らしている人が減っています。そのため地域の間人間関係が希薄になりがちで、孤立しやすい状況です。私たちは、そうならないように訪問活動などを通して地域のみなさんのニーズを把握するよう努めています。認知症の高齢者の徘徊をネットワークで早期発見するシステムもありますし、私は銭湯を営んでいますので自然に地域の情報が集まってきます。これらも活用して声掛けという基本にかえり、コミュニケーションの場を増やして、人と人との絆を取り戻していきたいですね。



民生委員・児童委員、淡路地区委員長 もりかわ ただし 森川 正 さん

気負わずに、何でも相談してほしい

15年前、主任児童委員を中心に「子育てサロン」を立ち上げました。誰でも気軽に利用できるスペースで、お母さん同士のつながりをつくったり、情報交換の場を提供するのが目的です。また東淀川区では全児童を対象に、主任児童委員についてより理解を深めてもらうとともに活動の活性化につながるよう、PRちらしを配付させていただいています。このほか、小中学校へ定期的に訪問し、先生方と問題を抱えている子どもの見守り方について話し合うことも積極的に行っています。委員が身近に存在していることを知っていただき、気負わずに、何でも相談してほしいです。



民生委員・児童委員、主任児童委員代表幹事 むらた とみさず 村田 富蔵 さん

5月12日「民生委員・児童委員の日」に街頭啓発活動を行います!!

5月12日は、「民生委員・児童委員の日」です。また、5月12日から5月18日は活動強化週間となっており、東淀川区では5月12日(土)11:00から1時間程度、ライフ東淡路店にて民生委員・児童委員のPRグッズを配布し、街頭啓発活動に取り組みます。ぜひお越しください。

「支えあう 住みよい社会 地域から」

～大阪でも100年の節目を迎えます～

民生委員制度は、大正6年に岡山県で創設された「済世顧問制度」から昨年で100年を迎えました。さらに今年は、ここ大阪の地において、民生委員の制度の前身となる「方面委員制度」が生まれて100年の節目を迎えます。



広告掲載枠

区長からひとこと 地域福祉ってなんだろう

民生委員・児童委員の方には、地域福祉を進めるために、地域の要として大切な働きをいただいています。では、なぜ地域で福祉を進めていくのでしょうか？

福祉とは、幸福を追求するものと言い換えられることがあり、簡潔な語呂合わせでは、「(ふ) 普段の(く) 暮らしの(し) 幸せを実現する営みである」と言われることもあります。これは、「生活困難な方に何かをしてあげる」「かわいそうだから優しくしてあげる」ということだけではなく、人間はみんな同じで、一人ひとりの命と暮らしを大切に、生きていくことが福祉の基本的な考え方だからです。

その「普段の暮らし」は、近い方がよく見えますし、みんなにわかりやすいです。だれが、どこで、いつ、どんなことで、どのように困っているのかを理解し、考えることができます。困っていることは、近くであれば、気軽に相談しやすいです。近くみんなが手掛かりや窓口や情報を知っています。近くみんな考えて、みんな協力して、解決につながれば、みんなが手ごたえと自信を持ちます。自信は、人間の生きる力を生み出し、地域やまちの誇りと自信につながります。

このように、近くみんな(地域)で、幸せな暮らしを求めること(福祉)が、「ええまち」につながっていきます。

東淀川区では、地域にお住まいの方と協力して「住んでよかった、住み続けたいまち」にするために、区内の地域ごとに地域保健福祉計画を策定していきます(豊新地域と井高野地域では策定済みです)。一緒にええまちをつくっていきましょう。

(参照:大阪市福祉読本) 東淀川区長 北岡 均

